

平成22年12月6日

関係機関の長 殿

長崎大学熱帯医学研究所長

平山 謙二 (公印省略)

平成23年度熱帯医学研究拠点共同研究及び研究集会の公募について

拝啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

本研究所は、文部科学大臣から共同研究・共同研究拠点「熱帯医学研究拠点」として認定を受けております。

つきましては、同拠点の事業として、平成23年度の共同研究及び研究集会の公募を別添要項のとおり行いますので、貴機関所属の教員又は研究者に周知いただきますようお願い申し上げます。

敬具

問い合わせ先

〒852-8523 長崎市坂本1丁目12番4号

長崎大学熱帯医学研究所総務係 野原

電話：095-819-7803 FAX：095-819-7805

E-mail：k-nohara@nagasaki-u.ac.jp

平成23年度 熱帯医学研究拠点
一般共同研究及び研究集会 公募要項

長崎大学熱帯医学研究所

本研究所は、国内唯一の熱帯医学研究を目的とする文部科学省所管の公的機関で、平成21年に文部科学大臣から共同利用・共同研究拠点「熱帯医学研究拠点」として認定されました。同拠点事業として、一般共同研究及び研究集会の課題を下記のとおり募集します。

(熱研ホームページ：<http://www.tm.nagasaki-u.ac.jp/nekken/>)

1. 募集課題

A. 一般共同研究

本研究所（海外付属施設を含む）を活用することができる熱帯病・新興感染症の基礎及び応用研究プロジェクトを募集します。本研究所は、アジア・アフリカ感染症研究施設を中心に熱帯地のフィールド研究の基盤を整備しており、また国内での感染症研究拠点として先端研究を支援する体制も整っております（各分野の紹介を参照のこと）。特に若手研究者のチャレンジングな研究プロジェクトの提案を期待しています。

研究期間：1年間（応募の際複数年の研究計画を記載することも可能。但し、年度末に継続申請を行う場合は、評価と再審査を必要とする。）

B. 研究集会

熱帯医学・国際保健医療学に係る今日的課題への考察や提言、蓄積されてきた研究課題の総括やとりまとめ、及び新しい共同研究課題の企画や準備に資する研究討論集会で、本研究所の教員と共同で開催する集会を募集します。開催場所は自由で、他の学会などとの共催も可能です。

開催期間：平成23年度中

2. 配分額

採択プロジェクト、集会への配分額は、申請書の内容に応じて本研究所熱帯医学研究拠点運営協議会の議を経て決定します。

A. 一般共同研究（旅費、消耗品費等対象）

アジア・アフリカ感染症研究施設を活用した共同研究は、100万円程度、国内の共同研究は、50万円程度を目安とします。なお、この額はあくまでも目安であり課題の内容に応じて増減があります。また全体の計画の一部を本研究費で実施する場合には必ず補完する研究費の出处を申請書に明記してください。

B. 研究集会（旅費、会場借上げ費、消耗品費等対象）

外国旅費を含む国際研究集会は、100万円程度、その他の研究集会は、50万円程度を目安とします。なお、あくまでも目安であり課題の内容に応じて増減があります。

3. 申請資格

大学の教員その他研究機関に所属する研究者又は所長がこれと同等の研究能力を有すると認める者。なお、研究組織には大学院学生及び国外の研究機関等の研究者を含めることができます。

4. 申請方法

(1) 共同研究又は研究集会を希望される研究代表者は、あらかじめ本研究所の対応する教員とメールなどで十分な打合せを行った上で申請してください。

(本研究所の研究分野とその研究活動並びに連絡先は別紙を参照してください。)

(2) 申請書類(提出部数1通で、熱研ホームページ <http://www.tm.nagasaki-u.ac.jp/nekken/> から様式をワードあるいはPDFで取ることが可能です。)

A. 一般共同研究 : 熱帯医学研究拠点一般共同研究申請書(様式A)

B. 研究集会 : 熱帯医学研究拠点研究集会申請書(様式B)

(3) 申請書提出期限

平成23年1月31日(月) 期限厳守

(4) 申請書提出先(郵送あるいはPDFのメール添付)

〒852-8523 長崎市坂本1丁目12-4

長崎大学熱帯医学研究所総務係 (電話: 095-819-7803)

(封筒の表に「共同研究・研究集会申請書在中」と朱書してください。)

あるいは、PDFファイルの添付メール(メールのタイトルに「共同研究・研究集会申請書添付」と記載のこと)で総務係 k-nohara@nagasaki-u.ac.jp まで送付ください。メールの場合、必ず受け取りの返信をご確認ください。

5. 採否

本研究所熱帯医学研究拠点運営協議会の議を経て採否を決定し、平成23年3月末までに申請者へ通知します。

6. 共同研究・研究集会の報告

申請者(代表者)は、共同研究又は研究集会終了後速やかに所定の様式による報告書を、長崎大学熱帯医学研究所総務係へ提出してください。さらに本共同研究及び研究集会による成果は、運営協議会による評価のために年度末に開催する成果発表会で発表していただく予定です。

7. 知的財産権の取扱い

本共同研究又は研究集会の実施により生じた知的財産権の取扱いは、長崎大学共同研究規程を準用します。

8. 成果の公表

学術論文等で研究成果を公表する際には、必ず研究費記載欄 Acknowledgements に本共同研究又は研究集会の成果である旨を付記してください。

- ・和文の例：平成 22 年度長崎大学熱帯医学研究所共同利用研究（費）
- ・英文の例：a(the)Cooperative Research Grant(s) of NEKKEN, 2010

なお、併せて別刷（可能であればPDFファイル）1部を長崎大学熱帯医学研究所総務係へ提出してください。

提出いただいた報告書、発表論文は研究所発行の活動報告書、年次要覧、研究所ホームページなどに掲載すると共に、特に顕著な成果についてはマスメディア等での広報を行う予定です。

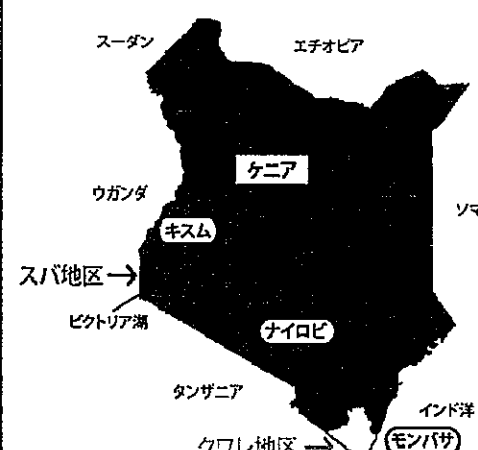
分野・附属施設等		研究活動等
病原体解析部門	ウイルス学分野	<p>デング熱、日本脳炎、西ナイル熱ウイルスなどのアルボウイルスおよび熱帯地域で問題となる新興感染症ウイルスの診断法、予防ワクチン、治療法の開発や熱帯地における疫学調査を実施する一方、研究所に保有しているウイルス株を用いてウイルスの病原性に関する分子レベルでの解析を実施している。</p> <p>分野スタッフ 教授：森田公一、長谷部 太 助教：井上真吾、久保 亨、余 福勲、鍋島 武、早坂大輔、アチャパトリ ナヤン</p> <p>電話 095-819-7829 e-mail: moritak@nagasaki-u.ac.jp</p>
	細菌学分野	<p>ヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）による感染症はわが国をはじめとする先進国においても高頻度にみられているが、熱帯地域に生活するヒトの約 80%が 20歳前にして感染し、その後も持続感染し世界人口の約半数を占めている。興味深いことに本菌の持続感染は、宿主の免疫に大きく関わっていて、感染時に産生する毒素が T 細胞の機能低下を引き起こすことから、他の感染症の発症への影響も示唆されている。こうしたピロリ菌の病原メカニズムの詳細を解明している。加えて、サルモネラ症、コレラなど腸管感染症の毒素病態学及び細菌学的な研究を行っている。</p> <p>分野スタッフ 教授：平山壽哉 講師：和田昭裕 助教：江原雅彦、中野政之</p> <p>電話 095-819-7831 e-mail: hirayama@net.nagasaki-u.ac.jp</p>
	原虫学分野	<p>世界の熱帯・亜熱帯地域で流行している重篤な原虫感染性疾患マラリアの病原原虫について、分子細胞生物学的解析や蛍光タンパク質タグを用いたタイムラプスイメージングによる光学的解析を行っている。さらに、ネズミマラリア原虫を用いて媒介蚊とマウスの間で感染サイクルを維持しており、異なるマラリア原虫種間の相互作用やマラリアに対する防御免疫の解析を行っている。流行地では、薬剤耐性マラリア原虫の分子疫学、ベトナムにおけるサルマラリア原虫の感染ダイナミクスの研究を展開している。南米で問題となっているシャーガス病を引き起こすトリパノゾーマ原虫の細胞感染機序についての研究も行っている。</p> <p>分野スタッフ 教授：金子 修 講師：上村春樹 助教：中澤秀介、矢幡一英、カトシ リチャード・レイソ、坂口美亜子</p> <p>電話 095-819-7838 e-mail: f0512@cc.nagasaki-u.ac.jp</p>
	寄生虫学分野	<p>1) 赤痢アメーバの病原性発現機構・同原虫をはじめ各種寄生虫に対する感染防御機構の研究、2) バングラデシュにおける寄生虫疾患のコホート研究ならびにゲノム疫学、3) アフリカでの疫学研究を念頭に、フィラリアや住血吸虫といった蠕虫から原虫・細菌・ウイルスに至るまで一括診断できるキットの開発、4) 腸管寄生性蠕虫や住血吸虫の免疫修飾作用の研究、を展開中である。</p> <p>分野スタッフ 教授：濱野真二郎 助教：三井義則、加藤健太郎、安達圭志</p> <p>電話 095-819-7822 e-mail: shinjiro@nagasaki-u.ac.jp</p>

<p>宿主病態 解析部門</p>	<p>臨床医学分野</p> <p>分野スタッフ</p> <p>電話</p> <p>e-mail</p>	<p>共同研究の基盤となる以下の海外臨床研究フィールドを開発・維持している：</p> <p>1) 北タイ HIV 感染者およびその配偶者を対象とする病院ベースコホート (グローバル COE 等) 約 1000 人規模の HIV 感染者を 90%以上の高い率で詳細に追跡している。また、約 200 名の HIV に暴露されたが感染していない配偶者のリクルートにも成功した。</p> <p>2) ベトナム中部における住民ベースコホート (長崎大学ベトナム拠点) 約 36 万人の住民データと同地域唯一の病院ベースのデータベースを構築した。さらに同地域で 2000 人規模のベースコホートが進行中であり、母体血液および臍帯血が保存されている。</p> <p>教授：有吉紅也 准教授：森本浩之輔、吉田レイモト 助教及び助手：鈴木 基、吉野 弘、佐藤 光、宮城 啓、渡邊貴和雄</p> <p>095 819-7842</p> <p>nekken@nagasaki-u.ac.jp</p>
	<p>免疫遺伝学分野</p> <p>分野スタッフ</p> <p>電話</p> <p>e-mail</p>	<p>教室のテーマは、原虫 (マラリア、トリパノソーマ)、ぜん虫 (住血吸虫、糸状虫)、ウイルス (デング熱) など重要な熱帯感染症の防御および重症化に関わる遺伝子により制御される宿主の免疫機構の解明である。</p> <p>以下の 3 つの柱に基づいて研究を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 熱帯感染症の抵抗性を規定する遺伝子の解析 2. 熱帯感染症の病原体病原性の分子レベルでの解析 3. 熱帯感染症に対するヒトあるいは動物モデルでの免疫機構の解明およびワクチンの開発。現在進行中のテーマとしては、 <ol style="list-style-type: none"> A. ガーナ野口研とのマラリア感染感受性 HLA 解析。 B. マラリアモデルマウスでの重症貧血発症メカニズム解析。 C. 住血吸虫感染後の肝硬変に抵抗性あるいは感受性を示す HLA-クラス II の機能解析。 D. ミニプタあるいはマウスをモデルとした住血吸虫防御免疫の解析。 E. 中南米のトリパノソーマ感染者を対象にした重症シャーガス病患者の遺伝解析。 F. ベトナムあるいはキューバでのデング出血熱の感受性遺伝子の同定とその機能解析。 <p>教授：平山謙二、安波道郎 准教授：大渡 伸 講師：菊池美穂子 助教：グエン フィ ティエン、柴田宏樹、シュアイク モハマッド ナル</p> <p>095-819-7818</p> <p>hiraken@nagasaki-u.ac.jp</p>
	<p>病理学分野</p> <p>分野スタッフ</p> <p>電話</p> <p>e-mail</p>	<p>熱帯病を病理学的手法および分子生物学的手法を用いて、主として感染症に関する研究を行う。中でも感染が原因で起る腫瘍の研究を行う。これらの結果、熱帯地域の疾患の治療および予防に貢献することを本分野の目的とする。後進国においては、腫瘍による死亡者の 20%から 25%が感染症によるものとされている。これに比べて、先進国では、7%から 10%が感染症によるものとされている。特に、腫瘍ウイルスと腫瘍の発生についての関連性については、密接であると考えられている。ゆえに、我々の研究は、感染症により発症する癌の病態をシグナル伝達などに焦点を当てて研究を進めている。</p> <p>助教：千馬正敬</p> <p>095-819-7814</p> <p>mikiyo@net.nagasaki-u.ac.jp</p>

エイズ・感染防御分野 (客員)	ヒト免疫不全症ウイルス (HIV) の増殖機構の解明。最近、ヒトにおいて感染していることが報告されたマウス白血病ウイルス (MLV) の増殖機構の解明と、ヒトおよび野生マウスにおける疫学研究。
分野スタッフ	教授：山本直樹 准教授：佐藤裕徳 助教：久保嘉直
電話	095-819-7845
e-mail	yoshinao@nagasaki-u.ac.jp

環境医学部門	生態疫学分野	<p>1) ケニアにおける「顧みられない熱帯病 (NTD)」の実態を把握するため多重感染症の一括診断法の開発研究を率いる一方、その基盤となる Health Demographic Surveillance System (ある地域住民の出生、死亡、移動、病気などの定期的調査) をビクトリア湖畔スバ県で5万人を対象に運営 (金子聡)。</p> <p>2) ケニアの乳幼児下痢症起炎菌の病因学的意義を明らかにするため、下痢起因菌の分離率および分離菌の分子生物学的性状を追求、また頻発するコレラの集団発生において薬剤感受性や分子生物学的性状の変化を観察 (一瀬休生)。</p> <p>3) ビルハルツ住血吸虫症撲滅の方法論を探るため、特に中間宿主貝に焦点を当て調査 (嶋田雅暁)</p> <p>教授：嶋田雅暁、金子 聡 助教：後藤健介、藤井仁人</p>
	国際保健学分野	<p>当分野では研究と社会貢献を二つの柱として掲げている。</p> <p>研究は、1) 「生態系と感染症」の関係を研究する、2) 「環境や気候変動と感染症」の関係を研究する、3) 「時間軸のなかでの感染症」を再構築し研究する。共通概念は「空間軸」と「時間軸」。空間的広がりや時間的広がりの中で、感染症流行の様相を比較しその多様性を理解することにある。</p> <p>社会貢献は国際貢献を行う。企業に「企業の社会的責任 (CSR: Corporate Social Responsibility)」があるように、大学にも社会的責任があると考えている。当分野における社会的責任の一つが国際貢献である。国際貢献としては、1) 政策提言、2) 現場における開発協力、3) 緊急援助等。こうした研究、社会貢献に対し共同研究、研究集会を組みたい方々を歓迎します。</p> <p>URL: http://www.tm.nagasaki-u.ac.jp/newrect/</p> <p>教授：山本太郎 准教授：奥村順子 助教：橋爪真弘、江口克之</p>
	病害動物学分野	<p>熱帯地方の多くの感染症は、昆虫などの動物によって媒介されます。中でも特に蚊は、マラリアや日本脳炎などを媒介することで恐れられています。本分野では、媒介蚊を中心に、それらの遺伝子から生態まで、さらに病原体や人と関わりなど、アフリカと東南アジアの熱帯地方にフィールドを設け研究を行っています。研究を通して人間の健康を守ることを目的とするとともに、病気を媒介する動物の本質的な研究も主眼にしています。現在取り組んでいる研究課題は、1) アフリカのマラリア媒介蚊の生態と防除、2) ベトナムを中心とした東南アジアでの Dengue 熱媒介蚊の生態と防除、3) 両地域における媒介蚊の地理的分布と集団遺伝学、4) 気候変動などの環境変化による媒介蚊、および、感染への影響、5) 媒介蚊の分類と系統進化、などです。</p> <p>教授：皆川 昇 准教授：川田 均</p>

	電話 095-819-7809	助教：比嘉由紀子、砂原俊彦、角田 隆、二見恭子
	e-mail f1826@cc.nagasaki-u.ac.jp	

<p>アジア・アフリカ感染症研究施設</p>	<p>ケニア拠点</p>	<p>熱帯医学研究所・ケニアプロジェクト拠点は、首都ナイロビにあるケニア中央医学研究所（KEMRI, CMR）を本拠地として、各地で活動を行っています（一瀬拠点長）。ナイロビから飛行機でキスムに飛び（1時間）、そこから車で2時間のスバ地区（人口5万5千）では、ICIPE 内に研究室を整備し、熱帯感染症・公衆衛生並びに健康関連問題解決のための研究の基盤となる人口静態・動態調査システム（DSS：Demographic Surveillance System）を整備しました（金子聡）。ICIPE のラボと診療所をベースに臨床疫学研究の準備も整い、現在マラリア媒介蚊コントロール研究（皆川）を行っています。さらに保健省と協力してコレラをはじめとした下痢症の疫学研究（一瀬）が進行しています。2009年からウイルス疫学グループがアルボウイルス研究（井上）、本年度からはインド洋岸のクワレで住血吸虫症の疫学研究が始まっています（嶋田）。</p> <p>研究組織</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 下痢症グループ（一瀬、和田） 2. マラリアグループ（金子明、皆川、二見、平山） 3. 寄生虫グループ（嶋田、濱野） 4. ウイルスグループ（森田、井上） 5. 臨床・疫学グループ（金子聡）  <p>拠点スタッフ</p> <p>教授：一瀬休生、嶋田雅暁、皆川 昇、濱野真二郎、金子 聡 准教授：川田 均、 助教：久保 亨、二見恭子、井上真吾</p> <p>e-mail shimadam@nagasaki-u.ac.jp</p> <p>URL http://www.tm.nagasaki-u.ac.jp/nairobi/</p>
	<p>ベトナム拠点</p>	<p>熱帯医学研究所ベトナム拠点は、文部科学省「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」（平成17年度～21年度）により設置され、拠点の旗艦として国立衛生疫学研究所（National Institute of Hygiene and Epidemiology-NIHE）に「NIHE-NU フレンドシップラボ（NNFL）」、及び南部ベトナムニャチャン市に大規模コホートを設置し、研究を開始しました。</p> <p>22年度からは第2期目（5年）に入り、SARS や鳥インフルエンザ、日本脳炎、デング熱、ロタウイルス、コレラ等の地球規模で流行する新興再興感染症を引き起こす病原体の自然界あるいは人間社会という環境下での生態を正確に理解し、環境中の病原体がヒトに疾病を引き起こすメカニズム解明を目指しています。</p>

	<p>拠点スタッフ</p> <p>e-mail</p> <p>URL</p>	<p>NIHE の持つ国内ネットワークの核となるパスツール研究所および国立総合病院を結んだ体制の中で、日本とベトナムの共同研究課題として4つの研究グループ（下痢症、蚊媒介性感染症、臨床研究、人獣共通感染症）を設定しています。</p> <p>研究組織</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 下痢症グループ（山城、江原、中込） 2. 蚊媒介性ウイルスグループ（長谷部、角田、鍋島、余、森田、皆川） 3. 臨床研究グループ（吉田、吉野、安波、柴田、有吉、平山、Huy） 4. 人獣共通感染症グループ（森田、山城、上地、堀田、有川、西園、大槻） <p>教授：山城 哲、長谷部 太、</p> <p>助教：吉野 弘、角田 隆、上地玄一郎、堀田こずえ</p> <p>tyamashi@nagasaki-u.ac.jp</p> <p>http://www.tm.nagasaki-u.ac.jp/vietnam/index.html</p>
<p>熱帯性病原体感染動物実験施設</p>	<p>施設スタッフ</p> <p>電話</p> <p>e-mail</p>	<p>1) 熱帯医学領域に関連した病原体による感染症の研究に必要な動物実験および病原体株の動物による継代保存、2) ナショナル・バイオ・リソース・プロジェクト（NBRP）の一環としての病原性原虫の液体窒素による保存と原虫株の分譲提供、3) 腸管寄生病原性アメーバの分離収集、を行っている。上記研究のために、感染動物飼養室を7室、感染実験室を3、中間宿主と媒介昆虫飼養室を1、更にP3レベルの感染実験室と飼養室を稼働させている。</p> <p>施設長：濱野真二郎</p> <p>助手：柳 哲雄</p> <p>095-819-7822</p> <p>shinjiro@nagasaki-u.ac.jp</p>